



世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「おっはよーございます、部長！」

「おはよう、元気がいいねえ〜。朝からコーヒーを飲んで元気いっぱいじゃないか。」

「そうなんです！最近コーヒーにハマっちゃいまして、毎朝飲んでるんですよ。特にお勧めは、ブルーボトルコーヒーです！！」

「ブルーボトルコーヒーってなんだ??」

「ブルーボトルコーヒーは、アメリカ発のコーヒーブランドで、今コーヒー界のアップルって言われてる美味しいコーヒーなんですよ！まだ日本に出店してないので、アメリカにいる友達に豆を送ってもらってるんです！」

「そんなにすごいのか。ぜひ一口貰えないか??」

「え…部長と間接キスとか嫌ですよ笑」

「おいおい、私はな昔はダンディーでかっこいいってよく言われていたんだぞ！逆に、間接キスできる事を感謝してもらいたいぐらいだな。」

「…きっも笑」

「ばっかもーん！！もう知らん。」

「じゃあわかりましたよー。はいっ（嫌そうに）」

「うむ。これは美味しいな！ところで今週も課題はやってきたかね？」

「はい、ちゃんとやってきましたよ！！」



今週の注目レポート・重要ニュース

■経済指標や重要イベントなど

【1.米国】

先週の米国市場は上昇しました。長期金利の上昇が一服したことなどから上昇してスタートしたダウ平均は、その後も早期の利上げ観測が後退したこともあって堅調な推移が続き 5 日続伸となりました。ダウ平均は、17 日に FOMC の結果が緩和的な内容だったことで大幅高となり約 2 カ月ぶりに史上最高値を付けると、連日で高値を更新して週の取引を終えています。また、S&P500 株価指数も 18 日に史上最高値を更新しています。19 日には、ニューヨーク証券取引所にアリババ集団



(BABA) が上場し、初値は 92.7 ドルと公開価格の 68 ドルを大幅に上回り、公開価格を 4 割近く上回る 93.89 ドルで取引を終え順調な滑り出しとなりました。

1-1. 鉱工業生産指数

15日に発表された8月の鉱工業生産指数は前月比0.1%低下となり上昇とみていた市場予想を下回って7カ月ぶりのマイナスとなりました。8月の設備稼働率は78.8%となりこちらも市場予想を下回り2月以来の低水準でした。

1-2. ニューヨーク連銀景気指数

15日に発表となった9月のニューヨーク連銀景気指数は27.54と市場予想を上回って2009年10月以来の高水準でした。

1-3. FOMC (連邦公開市場委員会)

17日に終了したFOMCで米連邦準備理事会(FRB)は量的緩和の縮小継続とともに、10月の次回会合で証券の追加購入を停止する方針を確認し、金融政策平常化に向けた出口戦略も初めて示しました。しかし、声明では事実上のゼロ金利政策の解除時期を量的金融緩和が終了してから「相当の期間」としていた従来の文言を維持し、イエレンFRB議長の会見でも従来と大きく違う認識は示されませんでした。ただ、FOMC参加者の政策金利見通しのレンジ予想が引き上げられたことを受けて米長期金利が上昇、ドル円は一段の円安となりました。

1-4. 米住宅着工件数

18日に発表された8月の米住宅着工件数は前月比14.4%減の95万6000戸(年率換算)と2カ月ぶりの減少となり市場予想を下回りました。

1-5. 住宅関連指標

今週は住宅関連指標の発表が多く予定されています。22日には中古住宅販売件数、23日には米FHFA住宅価格指数、4日には新築住宅販売件数が発表となります。中古住宅販売件数は春先から持ち直しているものの、新築住宅販売件数は未だもたついている状況で8月の販売件数に注目が集まります。

1-6. 米国内総生産(GDP)確定値

26日に米GDPの確定値が発表されます。改定値は前期比年率4.2%増と、速報値の4.0%増から上方修正され2013年第3四半期以来の大きな伸び率となりましたが、確定値はさらに上方修正が見込まれています。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。



【2.欧州】

先週の欧州の主要な株式指数は上昇しました。週の前半はスコットランドの英国からの独立の国民投票や米国での FOMC を控え様子見となりましたが、FOMC 結果が緩和的な内容だったことや、スコットランドの英国からの独立が否決されたことから週後半は堅調な展開となりました。ドイツの DAX 指数は先週一週間で 1.5% 上昇しています。

2-1. ユーロ圏製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値

23 日に 9 月のユーロ圏・製造業購買担当者景気指数 (PMI) の速報値が発表されます。今回は 8 月の 50.7 からの小幅な低下が予想されています。

【3.日本】

先週の日本市場は上昇しました。米 FOMC の結果発表を控え様子見が強いなか日経平均は節目の 16,000 円を前に上値を押さえられ軟調なスタートとなりました。しかし、FOMC の結果が緩和的な内容だったことを受けてダウ平均が史上最高値を更新したことや、ドル円で一段の円安が進んだことなどから木曜日に日経平均は 16,000 円を回復しました。週末にはスコットランドの英国からの独立を問う住民投票で反対派が優勢と報じられたこともあり、日経平均は昨年末高値を更新して 6 年 10 か月ぶりの高値で取引を終えています。

3-1. 消費者物価指数

26 日に 8 月の全国消費者物価指数が発表されます。今回は前月同様に前年同期比で 3.4% の上昇が見込まれています。

【4.中国】

先週の上海総合株価指数は小幅に下落しました。連日で年初来高値を更新し 1 年半ぶりの高値圏にあった上海総合株価指数は 16 日に利益確定の売りで大幅安となりました。その後は中国政府による景気対策への期待もあって 3 日続伸となったものの、16 日の下げを取り戻せずに取引を終えました。

4-1. HSBC 中国製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値

23 日に 9 月の HSBC 中国製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値が発表されます。国家統計局が 1 日に発表した 8 月の PMI が 51.1 と 7 月の 51.7 から低下しただけに、今回発表される PMI にも注目が集まります。



詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他] [J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

1. 日本（前回からの変更なし）

内閣改造後の経済対策および、消費税再引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

2. 米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。QE は秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。

3. 欧州（前回からの変更なし）

ECB は追加金融緩和を実施。ソブリンQEに踏み切る観測も台頭。次回(10/2)の理事会に注目。

4. 新興国（前回からの変更なし）

中国において、8月の鉱工業生産が5年8カ月ぶりの低水準となったため景気後退懸念も。今後の動向に要注目。

「いやー、今週も良くできてたじゃないか。どうだ、スタバにコーヒーを飲みにいかないか？私がおごってやるぞ。」

「いいですねー。じゃあ私は今週から発売された『一杯 2000 円の高級コーヒー』でよろしく願いしまーす！」

「やっぱりドトールにしよう…」



利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会